

東京 2020 オリンピック聖火リレー



6月18日、市内で東京2020オリンピック聖火リレーが行われました。国立天文台水沢V L B I観測所から後藤伯記念公民館までの1.57kmを8人のランナーで走破し、特別な思いが込められた聖火をつなぎました。沿道からは多くの市民が拍手などでランナーを応援しました。

① 第1走者を務めた水沢V L B I観測所の本間希樹所長 ② アンカーを務めた本県最高齢ランナーの大崎ミオさんと伴走を務めた孫の青木望実さん ③ トーチに聖火を移す「トーチキス」 ④ リレーの様子は全国へライブ中継された ⑤ 沿道からは観客が拍手や旗などで応援 ⑥ スポンサーが記念グッズなどを配布した ⑦ 聖火ランナー全員で撮った記念写真



バスケットボール男子日本代表 国際強化試合 2021 岩手大会 東日本大震災10周年復興支援

6月25日、27日バスケットボール男子日本代表国際強化試合が市総合体育館（Zアリーナ）で感染症対策を取った上で行われました。

対戦相手はアジアの中でも屈指の力を誇るイラン。日本代表は、息を合わせた連携やダンクシュートなど豪快なプレーで応戦し、格上の相手に1勝1敗の成績で大会を終えました。

目の前で繰り広げられる最高峰の戦いは、訪れた人を魅了しました。



ゴール下に切り込む 田中大貴選手



3Pシュートを決める 安藤周人選手

(写真は日本バスケットボール協会提供)

東京2020オリンピック カヌー競技 ポルトガル代表が いさわかヌー競技場で事前合宿

6月27日、東京オリンピックカヌー競技ポルトガル代表が事前合宿で奥州市を訪れました。

来日したのはアントワニ・ラウニー選手とコーチのペレ・グレロさんの二人。到着後の歓迎セレモニーでアントワニ選手は、「フィジカルなどを調整し、オリンピックでは決勝に残りメダルを獲得したい」と意気込みを語りました。

7月4日からはスペイン代表チームも合流し、オリンピック前の最終調整を行いました。



市民の歓迎を受けるポルトガル代表選手団



真剣に練習に取り組むアントワニ選手



国際リニアコリアイダー（iLC）計画の各種最新情報をお届けします

6月2日、iLCの実現に向け、次の二つの文書が公表されました。今回はその内容をお知らせします。

①「iLC準備研究所提案書」
iLC準備研究所の設立に向け、組織体制の検討や加速器研究開発の研究者間の連携などを進めてきたiLC国際推進チーム（IDT）が、iLCに関心のある各国の研究所や政府関係者が、iLCへの参加を検討するための情報を提供することを目的に作成したものです。

②「iLC計画に関する主な課題について」（以下、「報告書」）
文部科学省有識者会議や日

本学術会議の検討で指摘されたiLC計画に関する主な課題について、課題解決に向けた取り組みの現状と今後の方策と見通しを、高エネルギー物理学研究者会議（JAHPEP）と高エネルギー加速器研究機構（KEK）がiLC計画提案者の立場で取りまとめました。

これら二つの文書の公開は、日本のiLC実現に向けた動きがさらに前進していくために必要なステップとなります。

また、日本においてiLCが実現されるためには、日本政府によるiLC実現に係る意思決定が必要となります。iLC計画は国際プロジェクトで、その学術的な意義はこれまでも説明されてきたように「基礎科学を進歩させる」ことにあり、日本を含めた関係各国の研究者はiLC計画を重視しています。

加えて、「基礎科学の進歩」が関連する分野の進歩に大きく影響し、iLCの最新技術が多岐にわたる分野へ応用されることでさまざまな貢献が

されることに期待されている面も重要です。しかし、iLCを実現するためにいくつもの課題があることが指摘されており、これまで国内外で話し合いが重ねられてきました。公開された「報告書」は、国内で指摘されたiLC計画に関する主な課題について、課題解決に向けた取り組みの現状と今後の方策、見通しを示したものであり、これを土台としてさらに検討が進められることが必要になります。

また国外では、昨年に策定された欧州素粒子物理戦略を基軸として欧州、米国がiLC計画を公式に支持している状況にあり、支援の土台は整いつつあります。こうした状況を背景に、iLCの実現に関する検討は今後も継続されていきます。



【iLC紹介動画】



雨後の緑が目鮮やかな季節となりました。いかがお過ごしですか。

6月18日、オリンピック聖火リレーが実施されました。国立天文台水沢V L B I観測所の電波望遠鏡前から本間希樹所長がトーチを手にスタートし、当市の最終ランナーである大崎ミオさんまで8人が、ゴール地点である後藤伯記念公民館まで聖火をつなぎました。中でも、県内最高齢ランナーの90歳の崎さんが沿道からの温かい声援を受けながら、足取りしつかりゴールを目指す姿に、たくさんの元気をいただきました。ありがとうございました。

6月下旬から今月上旬まで、奥州いさわかヌー競技場で、ポルトガルとスペインのカヌーオリンピック代表が事前合宿を実施しました。同競

技場で調整した選手がオリンピックで活躍してくれることを願っています。また、同競技場のほか奥州湖や馬留池では、ラフティングやカヌー、SUPを体験することが出来ます。市民の皆さんにも、ぜひカヌーの魅力と豊かな自然を体感していただければと思います。

6月17日、水沢商業高校から、奥州ふるさと応援寄附として、生徒が取り組んでいる「ごさえんちやプロジェクト」の事業収益の一部を寄付いただきました。返礼品として、温湿度計の寄贈の申し出があり、市内福祉施設に寄贈されます。これからもさまざまな活動を通じて、まちづくりに参画いただきたいと思います。

6月25日、水沢第一高校の陸上競技部の皆さんが、砲丸投げなど投てき種目でのインターハイ出場報告のため来庁しました。それぞれの目標達成に向けて、レベルアップを図り、大舞台でのさらなる飛躍を期待しています。

奥州市長 小沢昌記